

## 下知地域に公共津波待避施設の建設を

30年以内に襲来する南海地震。私の居住する高知市二葉町は海拔0メートル地帯。高知大学理学部岡村教授によれば「高知市下知地域の想定震度は最大の7。1メートル以上地盤沈下は**確実**。水没する。」とされています。更に巨大地震の場合は津波の襲来も想定されています。



二葉町では2年前に全所帯調査を行い自主防災会を結成しました。町内住民を対象とした講演会や炊き出し訓練、会報の発行、震災地神戸長田区鷹取町の訪問など活動をしてきました。

防災マップを作成する中で、1番悩んだのは地域内に自然地形の高台がなく、「浸水の恐怖」から逃れる場所がないことです。そこで町内の3階建て以上の共同住宅所有者のご理解を得て、町内会と自主防災会との3者協定を締結し、緊急時一時待避所を町内に10箇所こしらえました。



急がれるのは公共で耐震性のある津波待避所です。住民200人程度が待避できる場所の設置が急がれます。地域に最低2箇所は必要です。その場所がなければ地震を想定した地域の避難訓練すら出来ません。(青柳公園地下にある耐震貯水槽と合体した津波退避施設が必要です。)

行政の仕事は住民の命と財産を守ることです。県知事も高知市長も取り組むべく最優先課題として取り組んでいただきたい。同様の地域は高知市だけでも潮江、高須、大津地域です。人口は数万人以上はいます。県都高知市の中核を形成しています。

自助・共助は地域で構築しました。後は公助(国・県・市)の出番です。